

バッファリングエリア設定

設定ダイアログ

<input type="checkbox"/> サンプルバッファ使用する	詳しくは P 付 1-4 を参照してください。
<input type="checkbox"/> メモリ指定	
サンプリング方式	
ワード数	
サンプリング時間	
サンプル回数	
格納先	[CF カード] を選択します。
満杯処理	詳しくは P 付 1-6 を参照してください。
出力ファイル No.	[格納先] を [CF カード] に設定すると、自動的にファイル No. が設定されます。詳細は P 付 1-31 を参照してください。
メッセージ GNo.	詳しくは P 付 1-6 を参照してください。
<input type="checkbox"/> 演算を使用する	
<input type="checkbox"/> スタートビット使用する	
<input type="checkbox"/> 音声を使用	詳しくは P 付 1-6 を参照してください。
<input type="checkbox"/> 連続再生	
<input type="checkbox"/> E-Mail を使用する	詳しくは P 付 1-6 を参照してください。
<input type="checkbox"/> CSV 出力 *1	チェックありにした場合に、CF カードに保存するデータ (SMPxxxx.BIN) を CSV 形式 (SMPxxxx.CSV) に変換して保存することができます。
<input type="checkbox"/> バックアップ作成 *2	チェックありにした場合に、CF カードに保存するデータ (SMPxxxx.BIN) のバックアップを作成します。前述の [<input type="checkbox"/> CSV 出力] にチェックが入っている場合は、CSV ファイルのバックアップを作成します。

*1 CSV 出力について
 バッファリングエリアのデータを CSV ファイルで保存します。

保存のタイミング：

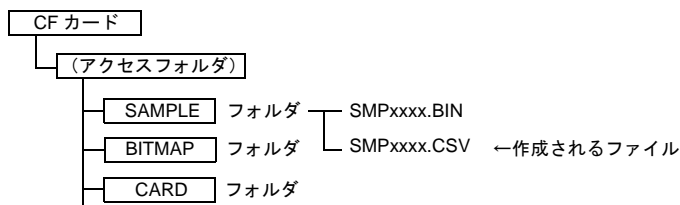
- 本体 RUN → STOP 切替時
- [機能：CF カード取り出し] スイッチを押した時

格納先：

¥ (アクセスフォルダ) ¥ SAMPLE

ファイル名：SMPxxxx.CSV
 (xxxx = 0000-0011：バッファリングエリア No.)

* 既に同じファイル名が存在している場合は、上書きして CSV ファイルを保存します。



* [CSV 出力] を使わずに、マクロコマンド [SMPL_CSV] を使う方法もあります。
詳しくは P 付 1-38 を参照してください。

*2 バックアップ作成について
バッファリングエリアのデータを BIN ファイルでバックアップフォルダに保存します。マクロコマンド [SMPL_BAK] を実行した場合と同じ動作です。

保存のタイミング：

- 日付変更時 (24:00)
- 電源投入時

格納先：

¥ (アクセスフォルダ) ¥SAMPLE¥ (日付フォルダ)

例) 2005/11/1 に実行した場合

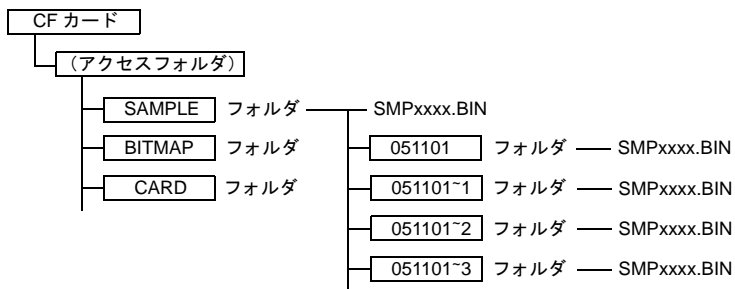
¥SAMPLE¥051101 フォルダに保存されます。

既に¥SAMPLE¥051101 フォルダが存在している場合は

¥SAMPLE¥051101~n (n=1 ~ 9, A ~ Z) フォルダに保存されます。

ファイル名：SMPxxx.BIN

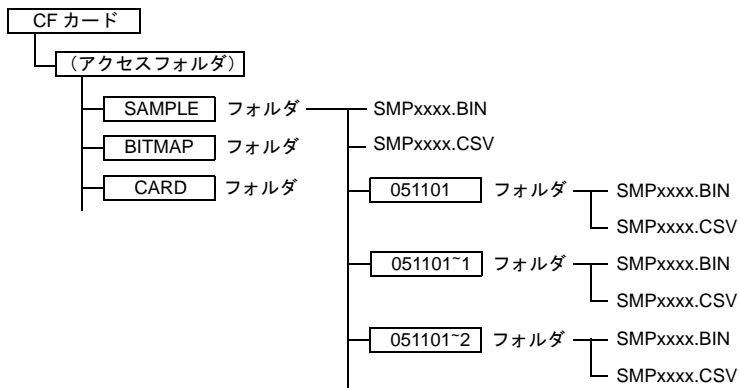
(xxx = 0000-0011：バッファリングエリア No.)



前項の [CSV 出力] にチェックが入っている場合には、[SAMPLE] フォルダ内の

「SMPxxx.BIN」から「SMPxxx.CSV」が作成されます。

従って、バックアップ作成も「SMPxxx.BIN」と「SMPxxx.CSV」の両方をバックアップフォルダに保存します。マクロコマンド [SMPLBAK_CSV] を実行した場合と同じ動作です。



* バックアップファイルが CF カードの容量を超える場合には、自動的に古いバックアップフォルダから削除することができます。

(ただし [システム設定] → [本体設定] → [環境設定] → [バックアップ作成時、CF カード容量が不足した場合、古いフォルダから削除する] にチェックが入っている前提です。)